



かわにし

川西高等特別支援学校
学校だより 第17号
令和3年3月19日

1年を振り返って

教頭 遠藤 知子

今年度はコロナ禍でのスタートでした。制限される部分も多々ありましたが、そんな中でも新型コロナウイルス感染症対策を考慮しつつ工夫を凝らした様々な取り組みがたくさんできた1年間でした。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、1学期現場実習が実施できない中、校内で「川西コーポレーション」として会社を立ち上げました。校内での実習であったものの、本物の会社さながらに、会社ごとのロゴマークや会社の経営方針などを掲げ、生徒たちが緊張感をもって取り組むことができました。この実習が成功したのも、苗箱洗いや電車の時刻表折りなど様々な作業種を提供していただいた企業や地域の皆様からの温かいご支援のおかげと感謝いたします。



今年度、オリンピック・パラリンピック教育推進事業推進校として多くのパラリンピックスポーツを体験することができました。また、十日町市と交流を行っているクロアチア共和国の様子、文化についてお話を伺ったり、音楽の授業で海外の楽器を体験する中でその文化を感じたり、美術の授業でグラデーション等の技法を使い、スポーツのポスターを作成したりと充実した活動を行うことができました。これらの経験は卒業後の生活に生かされ、楽しく豊かな生活ができると期待しています。

学習の成果を発表する「やまゆり祭」では、太鼓やダンスの発表をはじめ、美術の作品展示、清掃班の発表、クラフト班の販売活動、カフェ班のコーヒー販売がありました。清掃班は密を避け、来客者の座席や廊下の窓、体育館など様々な場所でスタンプラリー方式の実践発表をしました。カフェ班は例年のように実際にできあがったコーヒーをお客さんに届けることは難しかったのですが、心を込めた挨拶や注文の受け答えなど立派にできました。また、クラフト班ではひとつひとつ丁寧に作りあげた作業製品を販売しました。販売だけではなく、プラカードを使ってお客様の呼び込みをする生徒もおり、それぞれにできる力を発揮していました。



2学期に入りようやく現場実習が可能となり、1学期で学んだことを生かし実習に取り組むことができました。卒業後の就労に向けて頑張った3年生、より良い実習ができるように体調を整えてくださった保護者の皆様、様々な面から協力していただいた実習先企業の皆様、そして進路指導主事を中心に指導支援にあたった教職員、それぞれの力が就労につながったのではないかと思います。

4月からは新社会人や進級して一つ上の学年になります。新しい環境の中での新たなスタートとなりますが、今まで体験したことを自分の自信としてもち、頑張ってください。

ネバーギブアップの精神で

3 学年主任 佐藤 麻理子

「みんなは、どうして川西高等特別支援学校を選んだの？」

3 年生になってすぐの職業（生活）の時間に生徒たちに聞きました。「先生に言われたから」「いつの間にかここに決まってきました」「勉強についていけないと思ったから」・・・残念ながら、前向きな気持ちでこの学校を選んだ生徒はいませんでした。正直だなあと思いつつも、もうひとつ質問してみました。

「今、中学生にこの学校を紹介するとしたら、何ていいますか？」

「実習がたくさんあって、就労する力をつけられる学校」「人とのコミュニケーションを学べる学校」「社会人としてのマナーや礼儀を学べる学校」・・・

「わかってるじゃないですか！！」入学のきっかけはどうかであれ、この学校で学ぶ意義をしっかりと理解していることに、安堵するとともにとても嬉しい気持ちになりました。

この1年は、職業（技能）をはじめ、いろいろな活動に積極的に取り組んで、できることを増やし、自分の良さを磨く1年にしようと意気込んだ矢先の緊急事態宣言、そして休校。さらに前期の現場実習の中止、東京方面への修学旅行中止・・・学生生活ラスト1年に予定していたことが次々とできなくなり、誰もがこの先どうなるのだろうと不安になるところ、3 年生は動じませんでした。現状を受け入れ、学級目標である「ネバーギブアップ」の精神で、今できること、今やらなければならないことに全力で取り組む姿がそこにありました。前期の実習は校内実習となりましたが、後輩の手本となるべく態度で実習をリードしました。

修学旅行では、新潟市に行き先を変更し、観光スポットや買い物を楽しんだり、新潟伊勢丹に訪問して社会人として求められるスキルを学んだりすることができました。そして勝負の後期現場実習では一人一人が自分の課題と向き合い、3 週間の実習をやり遂げました。さらに就労を目指して、また卒業後スムーズに勤められるようにと実習を続ける生徒、履歴書の作成や面接練習に励む生徒、どの生徒も表情は引き締まり、たくましく成長したなあと感じたのは私だけではないと思います。

4 月からいよいよ社会人です。新たな環境での生活は、慣れるまで緊張や不安などで心身ともにストレスを抱えることもあるかと思います。また、思うようにいかず逃げ出したくなることもあるかもしれません。しかし「石の上にも三年」です。周りには応援してくれる家族やサポートの方々があります。困ったら相談をしながら、やり続ける道を模索してください。これからも「ネバーギブアップ」の気持ちを忘れずに、それぞれの場所で力を発揮してくれることと期待しています。



卒業生の進路

9 名の進路先は、下表のとおりです。実習でひたむきに真面目に仕事に向き合う姿勢に加え、実習ノートに毎日記入される保護者の思いに、就労先から応えたいという気持ちをもっていただきました。今のこの状況を当たり前と思わず、感謝の気持ちを忘れずに社会人としての責任を果たしてください。

企業就労 6 名				福祉就労（福祉サービス利用）3 名
製造業	小売業	サービス業	高齢福祉業	就労継続 B
2	1	1	2	3（うち生活訓練併用 1）

後期学校評価の報告

1月中旬に、保護者の皆様から後期の学校評価アンケートにお答えいただきました。以下、後期のアンケート結果を報告します。前期同様、すべての評価項目において、「そう思う」・「おおむねそう思う」の肯定的な評価を多くいただきました。また、忌憚なくご意見をいただいた中で気になる点については、即時に確認させていただきました。ありがたいご指摘に感謝いたします。今後とも、保護者の皆様の貴重なご意見をお聞かせ頂ければと思います。アンケートへのご協力、大変ありがとうございました。

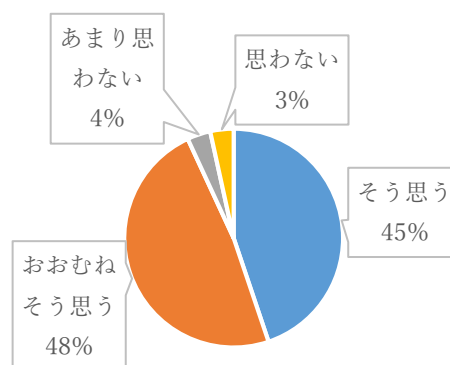
(1) 教育課程

学校は、地域資源を生かし、地域社会での体験的・実践的な学習や生徒の将来に必要な力を身に付けるための学習を実施し、また、その充実を図っていると感じますか。

【ご意見】

- ・今、コロナの影響で、外に出ることが少ないので、残念です。

(1) 教育課程



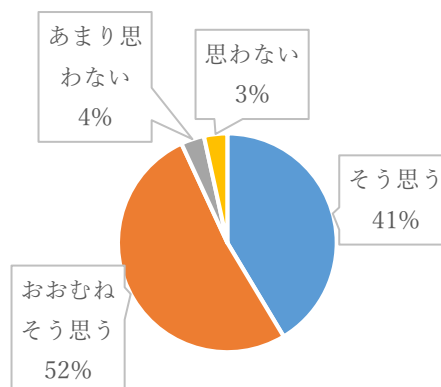
(2) 学習指導

生徒は、授業を通して、将来の夢や目標をもって取り組もうとする意欲を高め、将来の職業生活に必要な基本的な知識や技能、態度を身に付けていると感じますか。

【ご意見】

- ・校内での学習で知識、技能は身につくと思います。
- ・調理実習や裁縫など家でやろうと思ってもなかなかできずにいるので、学校でみんなと一緒にできるのはありがたい。

(2) 学習指導



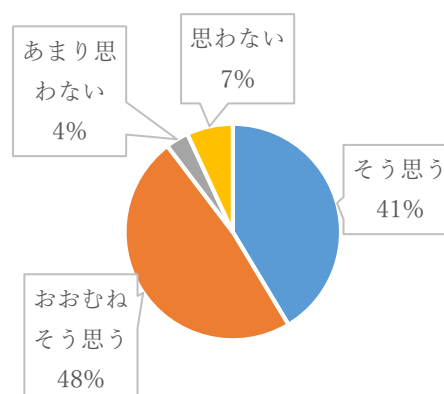
(3) 生徒指導

生徒は、学校生活を通して、人権意識を高め、人を思いやる気持ちやいじめを許さない態度が育っていると感じますか。

【ご意見】

- ・子供達は、優しく、心が清らかなので、思いやる気持ちがあると思います。
- ・学校全体としては「3（おおむねそう思う）」ですが、我が子についてはどうかと考えるとよくわからない。

(3) 生徒指導



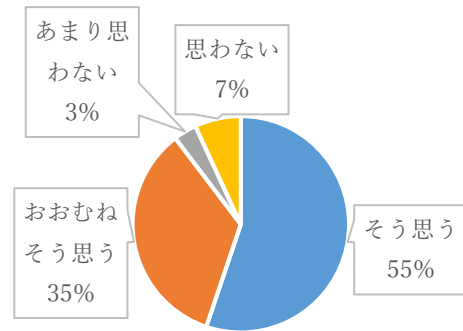
(4) 安心・安全な学校づくり

学校は、学習環境を整え、生徒にとって安心・安全な学校づくりに努めていると感じますか。

【ご意見】

- ・コロナ禍の今、3密を避ける等の配慮がきちんとなされていて安心して登校させることができる。

(4) 安心・安全な学校づくり



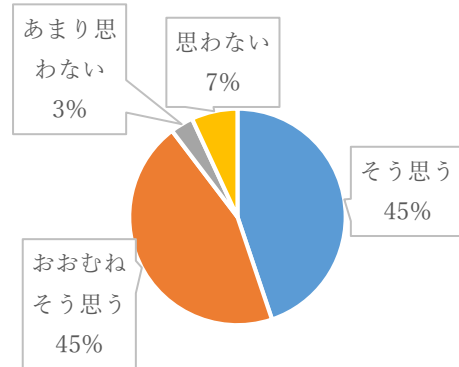
(5) 専門性の向上

学校は、生徒に必要な配慮を行うとともに、生徒が個性を十分発揮できる授業づくりに取り組んでいると感じますか。

【ご意見】

- ・職業技能の時間など、けがをしないように配慮していただけてありがたいと思う。

(5) 専門性の向上



(6) 関係機関との連携

学校は、家庭や地域に向けて学校の取組や生徒の様子を発信し、家庭や福祉・労働等の関係機関との連携を図っていると感じますか。

(7) その他（お気付きの点など）

【ご意見】

- ・もう少し一般などへの実習幅がほしいです。市の方でもA型・一般での障がい者雇用の条件の情報を保護者に教えて欲しいのと、選べるように増やしてほしい。
- ・生徒ひとりひとりの性格を理解し、それぞれにあった教え方をしてもらいたいです。
- ・アンケートは名前は書かなくていいのではないのでしょうか？
- ・学校の評価とは直接関係ないと思うのですが、先生方から求められているレベルに子や親が達することができずに、モヤモヤすることがあります。子どもの理解度が低いので他のお子さんのようにできずに申し訳なく思ってしまう。先生方にはよくしていただいているので不満がある、、、とかではないのですが、親の気持ちは焦っているのに子どもにはそれが伝わらずということが多々あるのでどうしたものかと思っています。
- ・全体的な事ですがコロナの影響でできない、取り組めない活動が多くあったと思いますが、その中でも出来る範囲で頑張っていたいただいた先生方、生徒の皆さんに感謝申し上げます。

(6) 関係機関との連携

